

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式 2

系統名	柚野線			事業者名	富士急静岡バス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	富士宮駅	柚野支所	上柚野		
系統キロ程 (km)	10.4	輸送量 (人/日)	20.1		
平均乗車密度 (人/便)	4.2	運行回数 (回/日)	4.8		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	柚野小・中学校			
	病院				
	商業施設				
	その他	農協柚野支店、JR富士宮駅、JR西富士宮駅			
収支率 (%) (収益/費用)	74.0		乗車人員 (人)	22,054	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点 2 バス停 2	名称	拠点：JR西富士宮・富士宮駅 バス停：十字街、神田通り		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	92.8				
増収策	1) 学校への乗合バス乗り方教室を行い、バス利用促進と校外学習での増発バス利用促進を図る。 2) 市内の公共交通一日乗車券等、企画乗車券を発行し普段バスや電車の使用が無い方も公共交通を利用していただき、バス利用促進を図る。 3) 平日専用学生「ウィークデイ定期券」について、更にPRを行い、学生のバス利用促進を図る。 4) 富士・富士宮市内の既存路線を一部見直し（富士駅への直通ダイヤの設定等）を行い、バス利用者の利便向上を図る。 5) 当社主要路線及び不採算路線沿線上バス停留所付近を対象とした戸別訪問を実施し利用者へのアンケート及び利用していない方への利用促進（時刻表等配布）を行う。				
費用削減策	1) 軽油燃料・オイル・タイヤ等をグループのスケールメリットを活かしたコスト削減を行い、稼働経費の低減化を促進する。 2) エコドライブの推進（アイドリングストップ運動等）により、軽油燃料の使用量削減と環境保全に努める。 3) 車両の計画的更新による燃費効率の向上と、修繕費の削減を図る。				
沿線市町のサポート	【富士宮市】 朝夕の通学利用や日中の買い物・通院の利用が多いため、国庫補助後の欠損額を市が補助することで、路線を維持していく。				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式 2

系統名	興津線			事業者名	富士急静岡バス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	富士駅	蒲原病院	寺尾橋		
系統キロ程 (km)	15.3	輸送量 (人/日)	17.9		
平均乗車密度 (人/便)	3.2	運行回数 (回/日)	5.6		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	富士川第一小学校、富士川中学校			
	病院	蒲原病院			
	商業施設				
	その他	JR富士川駅、蒲原駅、新蒲原駅、由比駅			
収支率 (%) (収益/費用)	53.6		乗車人員 (人)	39,117	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点 5 バス停 2	名称	拠点：JR富士・富士川・蒲原・新蒲原・由比駅 バス停：富士銀座、橋下		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	49.6				
増収策	<p>1) 学校への乗合バス乗り方教室を行い、バス利用促進と校外学習での増発バス利用促進を図る。</p> <p>2) 市内の公共交通一日乗車券等、企画乗車券を発行し、普段バスや電車の使用が無い方も公共交通を利用していただき、バス利用促進を図る。</p> <p>3) 平日専用学生「ウィークデイ定期券」について、更にPRを行い、学生のバス利用促進を図る。</p> <p>4) 富士・富士宮市内の既存路線を一部見直し（富士駅への直通ダイヤの設定等）を行い、バス利用者の利便向上を図る。</p> <p>5) 当社主要路線及び不採算路線沿線上バス停留所付近を対象とした戸別訪問を実施し、利用者へのアンケート及び利用していない方への利用促進（時刻表等配布）を行う。</p>				
費用削減策	<p>1) 軽油燃料・オイル・タイヤ等をグループのスケールメリットを活かしたコスト削減を行い、稼働経費の低減化を促進する。</p> <p>2) エコドライブの推進（アイドリングストップ運動等）により、軽油燃料の使用量削減と環境保全に努める。</p> <p>3) 車両の計画的更新による燃費効率の向上と、修繕費の削減を図る。</p>				
沿線市町のサポート	<p>【静岡市】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業者の増収策等実施における利用者周知・広報活動を支援 静岡市バス交通計画に基づき効率的・効果的なバス路線網再編に向けた事業者と連携し取組を支援していく。 <p>【富士市】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市としては、「親子ワンデー・トリップ・チャレンジャー」、「バスの日イベント」等のMMの実施や、乗り継ぎ割引券・市内共通回数券の運用、「富士市バスなび」の配布などを行うとともに、市自主運行路線との接続による相乗効果を図り、また、国や県の補助後の欠損額を補助することで、路線を維持していく。 				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 100</p> <p>乗車人員(人) 300,000</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20</p> <p>広域利用状況(%) 100</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	曾比奈線			事業者名	富士急静岡バス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	西富士宮駅	赤坂	曾比奈		
系統キロ程 (km)	10.5	輸送量 (人/日)	16.6		
平均乗車密度 (人/便)	3.4	運行回数 (回/日)	4.9		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	大淵第一小学校、大淵中学校、富士宮東高校、富士宮第一中学校、富士宮東小学校、富士特別支援学校			
	病院	新富士病院、富士脳研病院			
	商業施設				
	その他	JR西富士宮駅			
収支率 (%) (収益/費用)	61.5		乗車人員 (人)	32,549	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停4	名称	拠点：JR西富士宮・富士宮駅 バス停：十字街、神田通り、駅東入口、中野		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	52.6				
増収策	1) 学校への乗合バス乗り方教室を行い、バス利用促進と校外学習での増発バス利用促進を図る。 2) 市内の公共交通一日乗車券等、企画乗車券を発行し、普段バスや電車の使用が無い方も公共交通を利用していただき、バス利用促進を図る。 3) 平日専用学生「ウィークデイ定期券」について、更にPRを行い、学生のバス利用促進を図る。 4) 富士・富士宮市内の既存路線を一部見直し（富士駅への直通ダイヤの設定等）を行い、バス利用者の利便向上を図る。 5) 当社主要路線及び不採算路線沿線上バス停留所付近を対象とした戸別訪問を実施し、利用者へのアンケート及び利用していない方への利用促進（時刻表配布）を行う。				
費用削減策	1) 軽油燃料・オイル・タイヤ等をグループのスケールメリットを活かしたコスト削減を行い、稼働経費の低減化を促進する。 2) エコドライブの推進（アイドリングストップ運動等）により、軽油燃料の使用量削減と環境保全に努める。 3) 車両の計画的更新による燃費効率の向上と、修繕費の削減を図る。				
沿線市町のサポート	【富士宮市】 ・潜在的に多くの利用者が見込まれるため、事業者の努力によりさらなる収支改善を図っていただきたい。 【富士市】 ・市としては、「親子ワンデー・トリップ・チャレンジャー」、「バスの日イベント」等のMMの実施や、乗り継ぎ割引券・市内共通回数券の運用、「富士市バスなび」の配布などを行うとともに、市自主運行路線との接続による相乗効果を図ることで、路線を維持していく。				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート）

様式2

系統名	大淵線			事業者名	富士急静岡バス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	吉原中央駅	中野	富士宮駅		
系統キロ程 (km)	13.8	輸送量 (人/日)	16.2		
平均乗車密度 (人/便)	5.4	運行回数 (回/日)	3.0		
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	大淵第一小学校、大淵中学校、富士宮東高校、富士宮第一中学校、富士宮東小学校、富士特別支援学校			
	病院	新富士病院、大富士病院、富士脳研病院			
	商業施設				
	その他				
収支率 (%) (収益/費用)	88.3		乗車人員 (人)	36,258	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点2 バス停4	名称	拠点：JR富士宮駅、吉原中央駅 バス停：昭和通り、広見団地入口、中野、穴原		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	43.9				
増収策	<p>1) 学校への乗合バス乗り方教室を行い、バス利用促進と校外学習での増発バス利用促進を図る。</p> <p>2) 市内の公共交通一日乗車券等、企画乗車券を発行し、普段バスや電車の使用が無い方も公共交通を利用していただき、バス利用促進を図る。</p> <p>3) 平日専用学生「ウィークデイ定期券」について、更にPRを行い、学生のバス利用促進を図る。</p> <p>4) 富士・富士宮市内の既存路線を一部見直し（富士駅への直通ダイヤの設定等）を行い、バス利用者の利便向上を図る。</p> <p>5) 当社主要路線及び不採算路線沿線上バス停留所付近を対象とした戸別訪問を実施し、利用者へのアンケート及び利用していない方への利用促進（時刻表配布）を行う。</p>				
費用削減策	<p>1) 軽油燃料・オイル・タイヤ等をグループのスケールメリットを活かしたコスト削減を行い、稼働経費の低減化を促進する。</p> <p>2) エコドライブの推進（アイドリングストップ運動等）により、軽油燃料の使用量削減と環境保全に努める。</p> <p>3) 車両の計画的更新による燃費効率の向上と、修繕費の削減を図る。</p>				
沿線市町のサポート	<p>【富士宮市】</p> <p>・潜在的に多くの利用者が見込まれるため、事業者の努力によりさらなる収支改善を図っていただきたい。</p> <p>【富士市】</p> <p>・市としては、「親子ワンデー・トリップ・チャレンジャー」、「バスの日イベント」等のMMの実施や、乗り継ぎ割引券・市内共通回数券の運用、「富士市バスなび」の配布などを行うとともに、市自主運行路線との接続による相乗効果を図ることで、路線を維持していく。</p>				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50</p> <p>輸送量(人/日) 150</p> <p>平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>運行回数(回/日) 30</p> <p>収支率(%) 88.3</p> <p>乗車人員(人) 36,258</p> <p>アクセス拠点(箇所) 4</p> <p>広域利用状況(%) 43.9</p>				

平成27年度運行分系統別利用実態（公表シート） 様式2

系統名	船津線			事業者名	富士急静岡バス株式会社
路線の状況	起点	経由地	終点		
	富士駅	吉原中央駅 市立病院	沼津駅		
系統キロ程 (km)	25.7		輸送量 (人/日)	36.0	
平均乗車密度 (人/便)	4.8		運行回数 (回/日)	7.5	
公共・拠点施設 アクセス状況	学校	富士第一小学校、須津小・中学校、富士市立高校、金岡小学校			
	病院	富士中央病院、沼津市立病院			
	商業施設				
	その他	富士市役所			
収支率 (%) (収益/費用)	70.9		乗車人員 (人)	138,821	
乗換可能な アクセス拠点等	拠点3 バス停5	名称	拠点：JR富士・沼津駅、吉原中央駅 バス停：富士銀座、吉原四丁目、吉原本町、和田町、沼津信用金庫愛鷹支店		
広域利用状況 (%) (他市町へ跨ぐ利用者の割合)	10.2				
増収策	1) 学校への乗合バス乗り方教室を行い、バス利用促進と校外学習での増発バス利用促進を図る。 2) 市内の公共交通一日乗車券等、企画乗車券を発行し、普段バスや電車の使用が無い方も公共交通を利用していただき、バス利用促進を図る。 3) 平日専用学生「ウィークデー定期券」について、更にPRを行い、学生のバス利用促進を図る。 4) 富士・富士宮市内の既存路線を一部見直し（富士駅への直通ダイヤの設定等）を行い、バス利用者の利便向上を図る。 5) 当社主要路線及び不採算路線沿線上バス停留所付近を対象とした戸別訪問を実施し、利用者へのアンケート及び利用していない方への利用促進（時刻表配布）を行う。				
費用削減策	1) 軽油燃料・オイル・タイヤ等をグループのスケールメリットを活かしたコスト削減を行い、稼働経費の低減化を促進する。 2) エコドライブの推進（アイドリングストップ運動等）により、軽油燃料の使用量削減と環境保全に努める。 3) 車両の計画的更新による燃費効率の向上と、修繕費の削減を図る。				
沿線市町のサポート	【沼津市】 平成28年1月19日に開催した沼津市公共交通活性化対策協議会において、事業評価及び今後の取組について協議、検討した。 ・バス乗り方教室の開催 ・地元との意見交換会等による利用促進 ・本路線を含めた市内全域バス路線図をバス協会と作成、公共施設や観光協会等に配布 ・本路線を含めた事業者作成のチラシ、時刻表を公共施設等に配布 ・市ホームページへの市内全域路線図掲載 ・市ホームページから運行事業者ホームページへのリンク ※事業者からも経費削減の取組の他、インターネットによる時刻表・運賃検索システムを導入予定との報告を受けた。引き続き事業者と連携して利用促進策に取り組んでいく。 【富士市】 ・市としては、「親子ワンデー・トリップ・チャレンジャー」、「バスの日イベント」等のMMの実施や、乗り継ぎ割引券・市内共通回数券の運用、「富士市バスナビ」の配布などを行うとともに、市自主運行路線との接続による相乗効果を図ることで、路線を維持していく。				
利用実態	<p>系統キロ程(km) 50 輸送量(人/日) 150</p> <p>広域利用状況(%) 100 平均乗車密度(人/便) 10</p> <p>アクセス拠点(箇所) 20 運行回数(回/日) 30</p> <p>乗車人員(人) 300,000 収支率(%) 100</p>				

